



城戸淳二塾とは？

将来のトップ研究者の育成を目的とした、山形大学工学部と米沢興議館高校との連携事業のひとつです。
参加生徒は山形大学工学部の様々な研究室を訪れながら、実際に大学レベルの研究活動に参加します。

⇒つまり、
一足先に「大学生」「研究者」を体験します！



生徒のプレゼンテーションにコメントする山形大学城戸教授

城戸淳二塾 開講！

5月17日、山形大学工学部有機エレクトロニクス研究センターにて、城戸淳二塾入塾式が行われた。

城戸淳二塾は有機エレクトロニクス研究で世界的に著名な城戸淳二教授を中心として、同大学工学部と本学との新たな連携事業として始まる、将来のトップレベル研究者の育成を目的とした取り組みである。25日には第1回目の塾長ゼミが開催され、6名の生徒が自己紹介のプレゼンテーションを行った。城戸教授からは、「人との出会いはまさに一期一会。初対面の人に対して、いかに短い時間で自分の顔と名前を憶えてもらうか。それが社会人として、研究者としての勝負どころ。一人との出会いが、その先の間関係を築きあげることにつながる。一つ一つの出会い大切にすることを繋がる。一つ一つの出会いのこもったコメントと指導が伝えられた。」

iPadを使いこなして自己紹介をしている様子

城戸淳二塾の3大プログラム

塾長ゼミ

～一流の研究者となるために～

- ▽ プレゼンテーション講座
- ▽ 研究者に必要な資質とは？

研究室訪問

～様々な研究室を実地見学～

- ▽ 研究紹介・研究体験
- ▽ 教官・学生との質疑応答

山形大学工学部 出向専門研究

- ▽ 大学の研究室に配属
- ▽ 教官の指導の下、大学生と一緒に研究活動を行う

参加生徒は？

現在、2年生6名、1年生9名の計15名が参加しています。うち2名は運動部とのかけもちです。学びに対する興味・関心や、将来研究者になりたいという気持ちがあれば、生徒は理数科・普通科に関わらず参加可能です。

1学年 学校設定教科科目 異分野融合サイエンス コース別 講義・研修 (フュージョン・サイエンス FS)

学問の枠組みにとらわれない 科学の実践を学ぶ

今年度1学年生徒を対象に開講される異分野融合サイエンス(FS)の10領域が発表され、希望調査の結果、各領域への配属者が決定し、オリエンテーションが開催された。

その授業では、大学などの専門機関から講師を招いたり、直接施設を訪れてのコース別の研修を行う。また、7月22・23日には東京サイエンスツアー(TST)に参加する。

▽訪問予定のおもな施設 日本科学未来館、国立歴史民俗博物館、食と農の科学館、東京大学、筑波大学、東京理科大学、ニコイセンターコミュニケーションセンター



うぎの採集・観察 (伝統野菜のサイエンスアプローチ)

有機ELと地域産業と経済	化学・物理・地域経済	10名
人間社会とロボット	物理・工学	19名
物質と化学	化学・物理	20名
伝統野菜のサイエンスアプローチ	家庭・生物・歴史・地域経済	12名
つながりの科学	数学・情報	32名
江戸の数学を学ぶ	歴史・古文書・数学	9名
足もとの科学	芸術・建築	15名
スポーツ・保健とライフサイエンス	スポーツ科学・保健・物理	42名
社会と科学	地理・歴史・文化・化学	40名
英語発音と科学	英語・音声学・人体学	4名



↑ 足もとの科学
← スポーツ・保健とライフサイエンス

先輩から後輩へ 経験と想いを伝える

理数科会集会 開催



5月24日、2・3学年理数科と1学年生徒全員が参加した理数科会集会が開催された。集会では、はじめに熊坂理数科長より本校理数科における取り組みの概要と成果に加え、1学年生徒を対象に、今後理数科を志望するにあたって理解しておくべきことについて説明された。続いて、理数学部に進学した本校理数科卒業生の2名による、大学生活や研究についての講演も行われた。

コラム「SSHってなんですか？」

文部科学省が平成14年度から実施している、将来の国際的な科学技術人材を育成することを目的とし、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業のこと。
本校は平成24年度より2度目のSSH指定を受け(5カ年計画)、1学年および2・3学年理数科を主対象として、スーパーサイエンスリサーチ(課題研究)やサイエンスコミュニケーション(英語・科学コミュニケーション)、異分野融合サイエンスなどの授業科目や、フィールドワーク研修、東京サイエンスツアー、つくばサイエンス研修などを中心に、科学的・研究的能力の育成をねらった取り組みを行っています。

